

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(高校生コース)

留学(中間・結果)報告書

Kia ora. (Hello)

私がこの留学を目指したのは、2年前、私が通う中学に台湾人留学生が来て上手く対応が出来なかったことがキッカケでした。その時、上手く声掛けが出来て、何がしたいのか、どんなことに興味があるのか聞いていれば、その留学生が言葉少なにならなかったことと思います。その時思ったのが、海外の人達は異文化を学ぼうとアメリカやヨーロッパ、アジアなど世界各国に留学し、東京や大阪にも来ているのに、なぜ山梨には文化を学びに来ないのか、と思いました。多くの外国人は山梨に観光で来ても、学生として留学をして何かを学ぼう、ということが身近には感じられませんでした。

「山梨県の留学生受け入れ態勢の構築、活性化」をして、県内に来た留学生が素晴らしい山梨、もう一度訪れたい山梨、に出来ないか、そう強く思いました。その実現のためには、留学が盛んな地に行って、留学生に対しどんな受け入れ態勢があるのか、受け入れ家族とどう一緒に生活しているのか体験してみることが必要だ、と思いました。

留学先として選んだのは、日本と同じくらいの大きさで、山梨と同じ耕作地、農地が多いニュージーランドとしました。滞在都市であるパーマーストンノースは、大学や高校が多くある学生の街で、オークランド空港から飛行機で一時間の場所に位置しています。在籍したフライバーグ高校は生徒数約1000人、その内63人が留学生でニュージーランド国内でも比較的大きい高校でした。留学生63人の大半は東南アジア出身で、その他にドイツ人、イタリア人、スウェーデン人もいました。日本人は私も含め8人で、適度に他文化に触れることも出来ました。

ニュージーランドに来た目的である「留学生の受け入れ態勢、活性化、受け入れ家族の雰囲気」を探るため、それを山梨への留学に変えるために何が必要なのか、留学生と、高校の現校長先生、旧校長先生にインタビューを行ってみました。様々な質問を、ベトナム、中国、ノルウェーなど9カ国の留学生に対ししましたが、その一つで『留学生として差別は受けましたか』との問いに、私はアジア人からは「差別を受けた」「〇〇の差別を受けた」と答えが返ってくると思っていたところ、予想に反し「別に感じなかった」「みんな気にしてないみたい」「いろいろな人がいるのが普通でしょ」との答えが返ってきて驚きました。校長先生達からは「どこの国から来ても、学ぶ意欲がある生徒ならニュージーランドは歓迎するよ」と言われ、出身国や年齢、性別なども関係なく学ぶことが出来、意欲を後押ししてくれる環境が大切だ、ということが分かりました。

また、ニュージーランドの多くの高校には、ESOLという母国語が英語以外の生徒のためのクラスがあり、英語が苦手でも自分に合った語学レベルのクラスで学ぶことが可能で、英語が話せないから学校で困る、現地の学生と交流が出来ない、ということがなく、私も慣れない環境の中、簡単な単語で会話が出来、留学生を担当する先生方も複数名在籍し、一人ぼ

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）留学結果報告書

っちになることはありませんでした。もちろん ESOL 以外の現地学生と一緒に授業を受けることも可能なのと、学校でホームステイ先の斡旋や学生ビザの申請もしてくれ、生徒は不安が少ない状態で過ごすことが出来ることがよく分かりました。

高校の授業選択は自由度が非常に高く、自分の興味や得意な分野から好きなクラスを選ぶことが出来、自由に発言をし、自分を発信することを楽しんでいる姿が見受けられました。言語は英語以外に、マオリ語、スペイン語、日本語の計 4ヶ国語を学べ、私も 4ヶ国語を学び、日本語の授業ではクラスメイトの中国人留学生に、週に一度日本語を教えるという貴重な経験をすることが出来ました。ニュージーランドは日本と同じ島国でありながら、先住民が住み、移民、留学生も数多く受け入ることで、多種多様な文化を育み、独自の発展を遂げていることを感じる事が出来ました。

留学期間中の 9月と 11月、それぞれ 15日間、インターナショナルトリップに参加しました。このトリップは私のホストファザーが主催していたこともあり、食事の支度や荷物の運び出しの手伝いをさせてもらい、留学生としてではなく、留学生を受け入れる側の視点でも参加しました。参加者 50人のうち 40人がドイツ人、他はノルウェー人、フィンランド人、日本人という構成でした。ドイツ人の割合が多いため、バス、宿舎、どこでもドイツ語が飛び交い、他国の学生は疎外感を感じました。

旅行中、まるでドイツに居るようだったので『どうしてドイツ語ばかり話すの』と聞いたところ、「ドイツ人は悪く言えば人のことを気にかけない、でもそれは文化として至って普通だよ」と言われ、ドイツ人がドイツ人としてのアイデンティティーを大切にしていること、自分を無理に崩そうとしないでいること、そんな中でも私を気遣って英語で話しかけてくれる人もいて、優しさも持ち合わせていることが分かりました。海外留学する、外国で暮らす、と聞くと華やかに聞こえ、羨ましく思っていたが、日本の事、自分の事を良く知って臨む大切さが身に染みしました。

山梨の留学生受け入れの構築、活性化について必要なことは何か。山梨の真の魅力を知ってもらうには、ニュージーランドの学校のように留学生が困らないように、きめ細かなクラス分け、相談相手の充実ももちろんですが、併せて、異文化を知り理解できる人員を育てる必要性を感じました。山梨に留学してもらっても、山梨の地元の良さ、伝える方法を知っている人間がいなければ観光と変わりません。景色を伝えるだけでは山梨の文化の伝達、活性化にはつながらないと思います。

今回の留学は日本の留学仲介業者を通さず、家族と自分でホストファザーが経営する留学斡旋会社に直接依頼し、自分達の力でニュージーランドへ留学しました。少しでも留学費用を削減するためでしたが、留学を準備するために無我夢中で勉強した英語は役に立つこと、留学を希望していても金銭面で悩んでいる、または留学コストを少しでも削減したい

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）留学結果報告書

という人に、希望を与えられるのでは、と思っています。また、将来的に、自分自身が山梨からの留学生を海外に送り出す仕事に就くことが出来たらいいな、と考えるようにもなりました。

一人きりでニュージーランドへ飛び立ち、辛く、そして悔しい思いもりましたが、笑顔で過ごした7ヶ月間は今後の人生を必ず豊かにしてくれるはずです。何と云っても、大村先生、家族、この留学を支援してくださった全ての方々には感謝してもしきれません。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。Kakite ano. (See you again.)

